

巻 頭 言

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

附属中等教育研究センター

センター長 植 田 健 男

前任の松下晴彦教授の後を継いで、本年度から、中等教育研究センターのセンター長を務めることになりました。同時に、附属学校担当の副学部長（副研究科長）も兼務しております。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、ここにセンター紀要第十一号をお届けさせていただきます。

今回は、三本の個別論文と報告から構成されています。必ずしも十分とは言えないかもしれませんが、この一年間の中等教育研究センターの活動や研究の成果を反映したものになっていることと、思います。ご批評のほど宜しくお願い致します。

この一年間を振り返ってみても、教育学部附属中学・高等学校をめぐる状況が、大きく変わってきていることをしみじみと感じざるを得ません。昨年度から始まった名古屋大学全学教育科目・基礎セミナーへの附属高校生の参加、名古屋大学との短期集中型高大連携企画である中津川セミナーもいよいよ本格化しつつありますし、本年度に入ってユネスコ・スクールの認証を受け、名古屋大学のG30（グローバル・サートイ）に連携した企画も進められており、国際化についても新たな展開が見られるようになってきています。附属学校がこれまで展開し、蓄積してきた豊かな中等教育の成果をもとにして、名古屋大学とどのようなかたちで実質的な連携を築き上げ、高等教育にいかなる貢献をしていくのかが問われています。

それに伴い、その母体となる教育学部・大学院教育発達科学研究科もまた、大きな変化を求められていると言って良いだろうと思います。先に述べたような課題は、決して、独り附属学校のものではなく、その母体である教育学部の教育・研究活動のあり方についても、大きな問題提起を行うものです。

中等教育研究センターは、普遍的な中等教育の問題だけではなく、まさに私たちの手元にある中等教育機関である附属学校の具体的な事例を通して、教育・研究活動を展開していくことが求められていると思います。

これまでもまして、どうぞご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。